

教育センター便り

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者 佐藤 文博



「全体満開の神代桜」
芋井小学校 大日方 陽音

いつまでも
語り継がれる
桜花
芋井小学校 鈴木 希美



「じんだいざくらの絵」
芋井小学校 中澤 終斗

ひらひらと
神代桜が
舞い落ちる
芋井小学校 荒木 美里明

新たな教師の学びの姿

～ 教員研修プラットフォーム Plant ～

教育センター所長 佐藤 文博



この4月から長野市も教員研修プラットフォームPlantに完全参入しました。

教員免許更新制が発展的に解消され、新しい研修制度になったときに、次のように語られ、Plantが作られました。

「この新しい研修制度の下で、教師の個別最適な学び、協働的な学びを実現するためには、デジタル技術を活用し、効果的な記録作成・閲覧を可能とするとともに、豊富なコンテンツの中から、いつでも、どこからでも必要な研修を受講できるプラットフォームを整備する必要がある。」〔文科省：新たな教師の学びの姿（概要）〕ということで、Plantが作られたわけです。

「いつでも、どこからでも必要な研修を受講できるプラットフォーム」それがPlant。それでは、この先、教育センターはどうしていけばよいのかと考えてしまいます。

教師の研修も、子どもの学びのロールモデルと言われています。ですから教師も個別最適な学び、協働的な学びを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしていくことが大事であるわけです。

そう考えたときに、まさに、Plantにあるたくさん

のコンテンツ※1の中から、自分が必要とする内

容を、いつでもどこからでも受講できる「個別最適」な研修をPlantで自分のものにし、そして、教育センターでは、協働的に学べる研修を充実させていく。そんな方向がイメージされてきます。

こんな姿が浮かんできます。学校の先生方は、自分の課題や興味関心などから、個別最適な研修内容をPlantから選んで研修する。そして、年に何回かは、教育センターの研修を受講し、教員仲間と、語り合い、協働的に学び合い、新しい教育観、子ども観に触れ、自分の教員生活に新鮮な風を入れる機会にする。

そんな研修文化が生まれてくるといいなと個人的には思っています。

もっとも、経年研修等のキャリアステージに応じて教員としての力量向上を図るために必要なものについては、指定させていただいていますが、それ以外の希望研修については、本当に自分のための研修として、Plantや教育センターをうまく活用していただけるとありがたいと思います。

校長先生方には、自分の学校の研修文化、研修風土がどうなっているか再確認していただきながら、自校の研修文化の再構築にご尽力いただけるとありがたいと思います。

いずれにしても、先生方も、学校も、教育センターも、Plantをうまく活用した、新たな教師の学びの姿を模索していく時だと思えます。

※1 登録研修総数：25000件以上、オンデマンド研修：約2700件、文科省・NITS開発コンテンツ：175本（2025年度時点）

今年度の研修講座 ～学び続ける教職員を目指して～ Plantの活用によって

今年度の研修講座は、自らの力量向上を目指す「希望研修」54講座、教職員のキャリアステージに応じて指定している「指定研修」63講座、合計117講座を構築しています。

希望研修では「学びの改善を図るための研修、健康・安全・危機管理にかかわる研修、教育課題に対応した研修」を開講します。

指定研修では、キャリアステージや校務に応じて、マネジメント力の向上、幅広い力量の形成を目指し、研修を計画しました。

いずれも文部科学省の教科調査官、信州大学をはじめとする大学の先生方等、大勢の外部講師を招聘し、充実した研修講座となるよう構築しています。

また、「しなのきプランⅡ」の4つの重点プロジェクト（未来、絆、安全・安心、充実）との関連が分かるように各講座ごとに表記していますので、意識して受講を計画していただきたいと思います。

今年度より、市外の先生方も参加します。

「私の研修」を活用して研修計画を立てることを推奨します。「全国教員研修プラットフォームPlant」で、①「重点目標の設定」②「受講申込」③「受講履歴の確認」を行っています。

自分のキャリアステージに応じて、自ら研修計画を立て、自ら学ぶ場を選択して、自ら学び続ける教職員を目指していきましょう。

初任者研修 ～春期スタート研修～

4月14日に、令和8年度初任者研修の「春期スタート研修」が行われました。

開講式では、丸山 陽一 教育長から「新しいことに挑戦して自らを高めることが、子どもたちの成長

につながる」ということ、松田 幸一 初任者研修推進委員長から「これまでに大切にしてきた、信頼関係、学び続ける姿勢、教師としての在りよう」について、ご挨拶の中でお話いただきました。

また、「教育公務員として」、「教員としての礼儀マナー」、「教員の研修」等についての講義では、求められる使命や職務、教師としての立ち振る舞いや心構え等について理解し、目指す教師像について考えました。

【受講者の感想】

- ・非違行為は自分の社会的地位を失うだけでなく、教え子や、家族、同僚からの信頼を失う行為だ



と、改めて感じた。教育公務員としての非違行為を絶対に起こしてはいけないが、起こさないためには、日ごろから相談することができる環境づくりが必要だと感じた。悩みや困っていることを打ち明けられるように、教員同士が日ごろからコミュニケーションを取っていくことが大切だと思う。

(宮澤 剛彦・小林 由起子)

理科教育センター

本年度は、下記の学習、教職員研修、支援を行っています。今年度も理科教育センターをご活用ください。

1 理科教育センター学習

6年生の学習は、学級毎に1時限80分の授業を3時限行います。3時限のうち2時限は実験室で観察実験授業、1時限はプラネタリウムで天文授業を行います。観察実験授業は、一昨年度よりプログラミング学習を加えて9つの授業の中から、各小学校が選択した2つの授業を行います。学級担任（理科専科）の先生方には事前に学習指導案をお送りして、授業内容を理解していただき、サブティーチャーとして一緒に授業を進めていただきます。

4年生の天文学習は、希望した小学校がプラネタリウムを使用して、原則3学期に行います。1時限70分の授業です。

教育支援センターの理科学習は、市内各教育支援センターで学習している小中学生の皆さんが理科教育センターに来て行います。中学生が多いため、6年生の学習をベースにして、中学の学習内容を加味した授業を、春と秋の年2回行います。

2 理科研修講座

教育センター研修講座として行います。受講者の自己課題やニーズに沿った研修ができるように、講座の内容を工夫していきたいと考えています。小学校・中学校・高学年・中学校の各講座を開講します。

3 理科教育に関する学習支援

「しなのき派遣」により、理科室の整備、薬品庫の管理、教材教具の製作等、理科教育に関すること全般のお手伝いをします。また、先生個々の疑問や課題を解決するための個別講習を行います。

教材の提供（ハウセンカ・オシロイバナの種子、ホテイアオイ、メダカ、ミドリムシ、ゾウリムシ、火山灰、小学3年種子セット、オオカナダモ等）と実験器具の貸し出しを行います。（小中別の貸出備品一覧表を第1号の理科教育センターだよりに添付して送信済みです。）

4 理科学習についての情報発信と連携

「理科教育センターだより」、「星のたより」により、教材や指導方法、その時々トピックを紹介して、学校の理科学習に生かせるようにしていきたいと考えています。

学校現場のニーズに応える支援に努めてまいります。困ったときには、まず、電話でお問い合わせください。（中野 潔）

教育研究委員会

1 目的

「しなのきプランⅡ（令和6年度～8年度）」と長野市の教育課題を踏まえ、【子どもを観る・子どもの声を聴く・子どもと対話する】ことを通して、子どもが主体的に学び、他者と協働しながら問題を解決していく力を育む授業を目指します。さらに、ICTの活用を図りながら実践的な研究を推進していきます。また、長野上水内教育会との共同研究を継続し、研究成果の普及と活用の強化を図ります。

2 研究テーマ

「非認知能力を育む」（3年目）

3 研究内容

- (1) 研究委員会による研究
各委員会でテーマを設定し研究を深めます。
- (2) 授業公開
各教科の研究委員会は、小学校、中学校1校ずつの授業公開を行います。
- (3) 研究成果の発信
研究の成果を「教育センター便り」、「長野市の教育」、ポータルサイトへ掲載します。



(写真は昨年度の公開授業の様子)

4 各委員会の組織

- 代表 ◇世話係校長 ◆世話係教頭
◎委員長 ○副委員長

<みんなの学校づくり委員会> 新設

- ◇早川孝一（通明小） ◆横谷智子（三本柳小）
◎三溝高洋（櫻ヶ岡中） ○原山美奈（松ヶ丘小）
・中村 忍（通明小） ・吉池有希（保科小）
・木内亮介（三本柳小） ・黒岩浩平（古里小）
・岸田祥吾（西部中）

<国語科研究委員会>

- ◇山戸俊彦（城東小） ◆花岡精子（三水小）
◎村田 茜（市立長野中） ○青木友佳里（塩崎小）
・宮澤杏佳（篠ノ井西中） ・井出峻太（広徳中）
・松原歩夢（飯綱中） ・桑田一磨（大豆島小）

<社会科研究委員会>

- ◇佐藤史郎（緑ヶ丘小） ◆百瀬仁晶（裾花中）
◎相馬一成（市立長野中） ○塚原昌裕（通明小）
・篠原敏紀（裾花中） ・黒岩正章（信州新町中）
・北村竜也（小川中） ・稲生元希（下氷鮑小）
・丸山進一（信大附属長野中）

<算数・数学科研究委員会>

- ◇宮崎桂子（西部中） ◆市川大輔（東北中）
◎阿部将樹（南部小） ○山口紘佑（東北中）
・塚本真里子（信濃小中） ・中村 勝（東部中）
・丸山菜摘（綿内小） ・太田裕一（市立長野中）

<理科研究委員会>

- ◇中村 努（信州新町小中） ◆岡宮隆吉（小川中）
◎小池佑貴（市立長野中） ○竹内 輝（裾花小）
・村田将一（牟礼小） ・太子奈奈（松代中）
・倉島拓海（川中島中） ・小野菜緒（徳間小）
・齋藤有人（信大附属長野中）

<外国語活動・外国語科研究委員会>

- ◇粟津原弘文（三陽中） ◆小嶋徳仁（徳間小）
◎白鳥友樹（市立長野中） ○湯本裕太郎（城山小）
・丸山慎也（古里小） ・中浦浩汰（小川中）
・上野 大（北部中） ・宇野田陽実子（豊野中）
・坂本尚子（大豆島小）

<体育・保健体育科研究委員会>

- ◇宮崎 忠（市立長野中） ◆滝澤圭介（通明小）
◎青木孝文（市立長野中） ○渡邊啓介（城山小）
・玉井ふたば（下氷鮑小） ・今井智文（篠ノ井西中）
・濱 彰吾（信州新町中） ・竹内進悟（信濃小中）
・遠山大紀（城東小）

公開する授業は、長野市教育センターの研修講座において、初任研（2年次）、キャリアアップⅠ・Ⅱの研修となる授業もあります。大勢の先生方に参観していただきたいと思います。なお、新設した「みんなの学校づくり委員会」は、これからの学校について語り合いながら研究し、発信します。

（勝野 学）

教育相談室から ～ 就学相談を申し込む前に ～

令和8年度が始まりました。各校におかれましては新入生を迎えまた各学年も進級し、学校全体が新鮮な活気に溢れていると想像いたします。教育相談室も例年通り10名の指導主事で新年度を迎えました。今年度もどうか宜しくお願いたします。ここに、今年度の教育相談室の方針をお伝えしてご理解を賜りたいと思います。

全体の大きな方針は、長野市の大切にしている「インクルーシブな学校づくりの推進」です。今年度もそれに根ざした相談を進めていきたいと考えております。そこで、今回は「相談の申し込み」に際し、学校として念頭に置いていただきたいことをお伝えいたします。

来入児の申し込み まずは通常の学級からスタートすることを原則としたいということです。入学前のお子さんは未発達な部分も多く、できる検査も限られているので、なかなかその子の本態が把握できないのが現実です。ですので、入学してからの小学校での生活を基にして、学校教育という面からその子を見ることを大切にしたいのです。そうした中で、学級で様々な合理的配慮等を試みてもどうしても困り感が認められるのならば、就学相談を考えていただきたいと思います。ただし、知的障害やその他の障害が顕著であったり、療育施設等を利用していたりするお子さん、また園生活で相当の割合で個別的な対応が必要なお子さんについては、入学にあたっての特別な教育的支援も検討できると思います。来入児は必ず学校をとおしての申し込みになっておりますので、保護者や園の先生方にも上記の事柄を念頭に置いて対応していただきたいと思います。

在校生の申し込み ご存じのとおり、就学基準の一つと言える『学校教育法施行令』第22条および756号通知がございます。これに沿って教育相談室の指導主事（相談員）は資料を作成し、教育支援委員会でもこれを一つの判断基準として審議しているわけです。是非これを申し込みの際、「相談資料調査票」の中の〔校内就学支援委員会の考え「就学の場」〕を検討するときに参照していただきたいと思います。これは県教委の特別支援教育に関する各種ハンドブックやガイドラインに記載されております。

参考までに、756号通知にある知的障害学級入級にあたっての障害の状況を掲載します。すなわち、〔知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり、日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のも〕というものです。これら一つの基準として校内教育支援委員会で検討していただきたいと思います。

同時にインクルーシブな学校づくりを目指す意味でも次の点に尽力され、それでもなお困り感の払拭できないお子さんについての申し込みをお願いするところです。すなわち、様々な合理的配慮を試みることも、また、先生対子どもとの直線的な関係でなく、子ども同士のかかわりや話し合いを大切にした授業づくりに心がけること等です。

～今年度から就学相談の申し込み締め切りが早まります～

最後に、就学相談の申し込みについてです。既に様々な場面をとおしてお伝えしているところですが、今年度から年度内に教育支援委員会で審議できる相談の申し込みの締め切りを10月末日といたします。従前より1か月早まりましたので、各校におかれましてはそれに応じたご準備をお願いいたします。併せて、通級による指導を希望する相談につきましては、通年の受付けになります。今までも、ことばの教室への通級希望の相談は通年の受付けでしたが、今年度からはすべての通級による指導の相談を通年で受け付けることになりました。ご理解のほど宜しくお願いたします。 (大井 透)

令和8年度各担当の職員と直通電話番号

| 担 当 | 職 員 | 電話・FAX |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 総務担当 | 所長：佐藤文博 職員：中村博幸 清水和彦 小泉陽子 | 電話 226-7486 FAX 264-7570 |
| 研修・研究担当 | 主任指導主事：宮澤剛彦 指導主事：小林由起子 柳澤恵理子 中澤康匡 池上昭子 勝野 学 山崎慎也（兼務） | 電話 223-0070 FAX 223-0097 |
| 理科教育センター | 指導主事：中野 潔 池田淑恵 早川和仁 | 電話 284-4490 |
| 教育相談担当 | 主任指導主事：北沢浩美 指導主事：大井 透 中澤 寛 八田秀明 小林治雄 村田章子 小出まゆみ 小林智明 櫻井真治 小尾昭人 | 電話 264-6546 228-0950 電話 226-7509（FAX兼） |